

昭和町駅(地下鉄御堂筋線)②

松虫と大蛇伝説の桃ヶ池と神馬塚と

文の里駅(地下鉄谷町線) 南田辺駅(JR阪和線)

「大阪あそび歩マップ集」
その2 No.090

地下鉄昭和町駅

①松虫通

松虫通は大阪市内を東西に走る道路で、西に向かうと松虫塚に辿り着きます。昔、松虫塚周辺は見渡す限りの原野で、秋には虫の音が満ち、特に松虫(いまの鈴虫)の澄んだ音色が美しく、松虫の名所として知られていました。

②桃ヶ池公園

脛池(元禄期)、百池(寛政期)、股ヶ池(明治期)、桃ヶ池(昭和9年〔1934〕)と時代によって名称が変わりますが、今は桃ヶ池と呼ばれています。古地図によると、池の形が股を含む足の形とそっくりであったことから「股ヶ池」と呼ばれたり、周囲に多くの池があったことから「百ヶ池」と呼ばれたといわれています。公園として整備されたのは昭和8年(1933)です。

③桃ヶ池遺跡

桃ヶ池の歴史は古く、この周辺には大阪市より指定を受けている「桃ヶ池遺跡」があります。それらの遺物や地層調査の結果、縄文から中世にかけて、じつは桃ヶ池や長池は長い間、地表面だったことがわかりました。

④桃ヶ池伝説

桃ヶ池は付近の田畑に水を供給する大切な池でしたが、いつのころか、池の中に大きな蛇が住みつき、村人も恐れてよりつかなくなったため、池は荒れ果て、田畑に水が流せなくなりました。そこで、この話を聞いた聖徳太子が使者を桃ヶ池に出向かせ、

使者は池の中に入り、水が股に及んだあたりで大蛇を退治し、その後、村人は安心して暮らせたといえます。

⑤股ヶ池明神

飛鳥時代、股ヶ池中央にある浮島のくぼみに、胴周り3.6メートル、長さ11メートルという巨大な怪物の死体が横たわって村人が恐れおののき、聖徳太子が供養をしてオロチ塚を建てました。それから幾百年が経ち、高津3番地に住む角田某という人物が、ある夜、蚊龍が降りて来て「股ヶ池に祀ってほしい」と哀願される夢を見て、これは神のご託宣なりとオロチ塚の北に丸高、丸長の2大竜王を祀り、これが



股ヶ池明神の起こりです。オロチ塚は昭和初期まで残されていたことがわかっていますが、現在は所在不明です。

⑥神馬塚

住吉大社の神馬の飼育は代々、田辺が行っていました。伝説によれば、神功皇后が朝鮮半島から見事な白馬を持ち帰って住吉大社で飼育していましたが、ある日失踪して、探してみると田辺の地で休んでいて、「馬はここを好んでいるようだ」と神馬の飼育を田辺の住民に任せました。以来、連綿として戦前まで神馬は朝夕、田辺と住吉大社を往復していました。神馬塚は神馬たちの供養墓です。



JR南田辺駅

